

地域の防災

(自助・共助、危機管理編)



防災塾・だるま

危機管理の基本

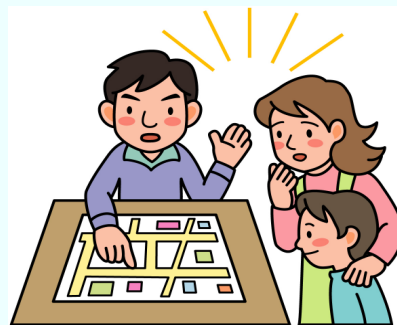
最悪の事態を想定

危機管理とは、あらゆる災害を回避し安全で安心できるための「方法」「備え」「行動」等を皆で共有することです。

災害とは自然災害のほか、火事、交通事故、犯罪、伝染病、原発、テロ、等々いろんな事象があります。

本編では、それぞれの具体的対策ではなく、共通して応用の効く**考え方**を主にまとめました。

その第1は、災害での最悪の事態をしっかりと想定することです。そして想定に基づいて対応策を考えて備えると共に、いざその時にとるべき行動を考えておくことです。対応策、備え、行動は、可能な限り2重3重に考えておくことも大切です。



破綻より過剰対策

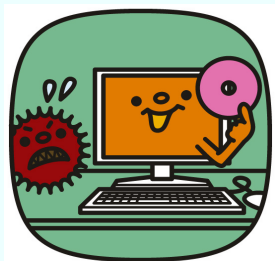
最悪の被害を想定し、対応策をよく考えたら事前にしっかり備えておくことが大切です。

物理的な完全な備えは、かなりハードルが高く容易にはできません。

だからと云って想定を甘くしてはいけません。

ハード的な備えだけでなく、行動面での対応など複合的に補って備えることが現実的です。

災害が発生しなければ備えは無駄のように思えるかもしれませんが、大災害時に備えが無ければ破綻します。危機管理とは「破綻より過剰対策」が原則です。



疑わしきは行動する

自分自身としても、地域団体としても逃げた方が良くかもしれない、閉じ込められているかもしれない、怪我人がいるかもしれないなど、疑問のある時は様子を見ていないで速やかに行動しましょう。



行動せずに犠牲者が出たり被害が拡大したら大きな後悔と責任が残ります。

空振りは許されるが見逃しは許されない

「大津波が来るから急いで高台に逃げよ!」と警報し避難したが被害の出るような津波でなかったなどの空振りは、何も失うものではなく許されます。

逆に「大したことは無いだろうと思って何もしなかった結果大きな被害が出た」こんな見逃しは許されません。しかし、空振りを反省して、いざその時のための教訓訓練として向上へと生かさなければ単なる空振りで終わります。



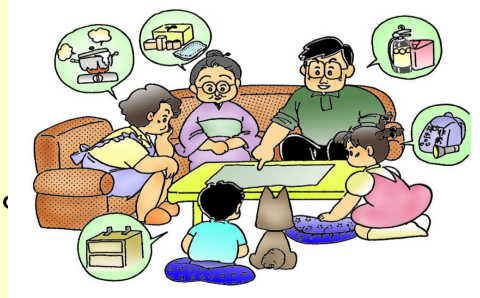
あなたの家庭、あなたの地域は、いろいろな災害（自然災害・人災・犯罪・伝染病など）について考えたことはありますか？ 先ずは考えて被害を想定してみることが危機管理の第一歩です。

家族の危機管理

考え方

優先・共有

家族が安心できる安全対策の共有。それは家族みんなが無事であるよう取り返しの付かないことを優先して対処方法を多様に考えておくことです。そのための備えと行動のとり方を家族でしっかり認識しておきましょう。いざその時は、共有した認識を目安に対応しましょう。災害事象は多様です。状況により考察認識をもとに臨機応変の判断をして行動することも大切です。



心得・対策 ①

事前の考察 事前の備え

危機管理は

事前の考察と備えが全てといっても過言ではありません。
具体的には

・考えられる災害の最悪を想定する

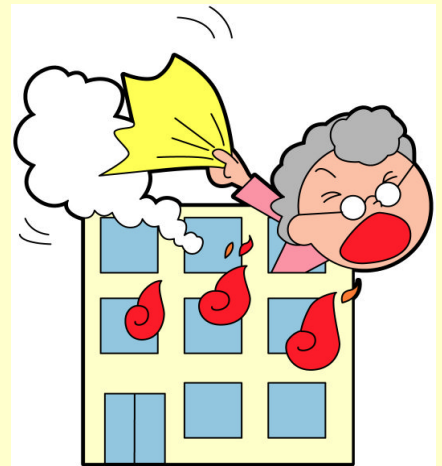
可能性の最大を想定し、対策を考えましょう。想定が甘ければ備えも甘くなります。また想定を超えた災難に直面するとパニックになり易く破綻につながります。

・取り返しのつかない事を優先する

トイレや食料など生き残った後の備えも必要ですが、先ず生き残る対策を最優先にすべきです。命を失なっては食料もトイレも要りません。

・備えは破綻回避への保険

備えと対策はできるだけ漏れのないようにしなければなりません。費用もかかりますが、それは破綻回避の保険です。



心得・対策 ②

- ・ **事前の考察が正しい行動につながる**
災害時は動転し冷静な判断ができません。危機回避について事前に家族で考察した行動・方法は適切な行動につながります。スキルアップは費用もかからず応用も効き波及もできるので極めて有効です。



- ・ **家族・近隣で共有**
スキルアップや対策手段などは、家族・近隣で共有することで大きな力になり効果が増します。
- ・ **備えを惜しまない**
殆どどの家の玄関その他には鍵が付けられ空巣等に備えられています。他の災害（地震・津波・火事・交通事故・病気・詐欺・・・）へもしっかりと備えましょう。

いざ・その時の行動

**冷静な判断
臨機応変な判断**

- ・ **疑わしくは行動する**
予感がする、・・・らしい時は行動しましょう。その時の行動は事前の想定と考察が可能にします。
- ・ **空振りには許されるが見逃しは許されません**
何もせず大きな被害が出るのは許されません。行動したが幸い何事もなかった。これは許されますし、大災害への良い訓練になります。
- ・ **風評流言に惑わされない**
災害時はパニックになりがちです。風評流言や人の流れに惑わされず冷静に行動しましょう。確かな情報元と日頃の見識が冷静な判断と適切な行動となり、他人の行動にも良い影響を与えます。
- ・ **貴重品に固執しない**
逃げるとき貴重品を持ち出そうとして犠牲になることが多々あります。まずは命あってのものだねです。
- ・ **臨機応変に判断する**
現場は多様です。マニュアルや事前の考察に縛られないで、その場に合った臨機応変の判断で行動することも大切です。

近隣地域の危機管理

考え方

連携共助

地域内から被害を出さない大きくしない

個人や家族だけでは対処できないことに取り組み、地域内から被害を出さない、被害を大きくしないことが大切です。そのためには事前に、連携共助の仕組みと顔の見える関係づくりが肝要です。



事前の備え

仕組み作り

・地域の安全安心「住民把握」

安全な環境と安全を維持できる仕組みがないと安心はできません。

環境はさておき、仕組みづくりの第一歩は住民の把握です。

自治会・町内会の住民把握は個人情報には当たりません。

防災家族カード（平成 年度）					
スパン	ロット	住所		携帯電話	
家族数	電話番号	氏名	男・女	年齢又は 肩い時代	血液型
住 宅 主					
同 居 者 数					
※					
※					
※					
※					
特記事項:					
緊急 連絡先		氏 名	電 話 番 号		続 柄
※					

防災家族カードの収集と活用

・地域で連携共助できる仕組みの構築

災害時は責任者も被災したり不在であったりします。そんな時でも速やかに連携共助が可能な指揮采配のできる仕組みと支援活動ができる仕組みを構築しておく必要があります。



・連絡手段の構築

電話もケータイも使えなくなります。走っての連絡では間に合いません。指揮采配、連携共助活動を速やかに行うためには連絡手段が不可欠です。

「トランシーバ」は放送局のように一度に多勢に伝えることができるので、災害時の情報伝達にうってつけです。

地域の班長さんなどへの連絡手段として活用しましょう。

・災害時の「行動マニュアル」作成

災害時の対策本部の立上げや、先ず何を優先して行動すべきか誰が指揮するかなど、基本的な「行動マニュアル」はパニック状況下で行動の指針目安として役立ちます。

防災訓練

地域の安全安心を確保するには、災害時の連携が速やかに機能する必要があります。どんな状況下でも誰でも司令塔となる災害対策本部が立ち上がり運営できることが望まれます。



実戦的訓練 (トランシーバの活用が有効)

・ 災害対策本部運営訓練

炊き出しや避難所設営など、災害後の対応は一刻を争うものではありません。災害が進行中に被害を拡大させず減少させることが先決であり、訓練はそのことを優先したものであるべきです。地域で大きな災害があったときに必要な災害対策本部運営訓練は、何を優先し、どう決断して行動するか、危機管理の基本が学べる訓練です。

・ 不意打ち訓練

平均して年に数回ある「緊急地震速報」が、発せられた時に訓練を行なうのは実践的です。実施し反省して順次改善して行けば理想的です。

緊急地震速報

地域の絆と信頼

地域の危機危機管理は絆が決め手

企業組織のように指示命令機能があるところでは仕組みを作れば、それなりに危機管理は可能です。一方、地域では指示命令機能に代わるのが近隣の絆と信頼です。



近隣の顔の見える関係、そして核になり信頼されるリーダーが居れば、いざと云う時に大きな原動力になります。

都市部では容易ではありませんが、お祭や行事、防災訓練、サークル活動など、より多くの人々が地域に関わる環境を継続して進捗させることです。



家庭と地域の危機管理10か条

- 1 . 最悪の事態を想定し、その対処法を複数考えておく。
現実の事態は多様なので想定に基づく対処法は2重3重に考えておきましょう。
想定が大きければパニックになり難い。
- 2 . 人命など、取り返しのつかないことを最優先に考える。
想定事態に基づき、家族・近隣の人命安全など優先順位をつけて考え取り組む。
- 3 . 危機回避の考え方・対処法を家族・近隣で共有する。
考え方・対処方法は家族や近隣と共有し、自助・共助の仕組みと絆を構築する。
- 4 . 疑わしくは行動する。
危機を感じたら様子見をするのではなく、まず行動する。
- 5 . 破綻より過剰に備える。
あらゆる災害へ多重に備えるのは簡単ではないが、破綻への保険と心得えよう。
- 6 . 空振りは許されるが見逃しは許されない。
過剰行動は訓練にこそなれ失うものはない。何もせず被った被害は許されない。
- 7 . 事前の考察が現場での正しい行動につながる。
いざその時はパニックになり不適切な行動になり兼ねない。平時の考えが冷静で適切な行動につながり、他人をも導くことになる。
- 8 . 備えを惜しまず、貴重品に固執しない。
平時から安全安心への投資をし、いざの時は貴重品よりまずは命を優先。
- 9 . 他人の行動や風評流言に惑わされず冷静に判断し行動する。
パニック状況下ではつられた行動になりがちである。冷静な判断と行動が大切。
- 10 . いざその時は臨機応変に判断して行動する。
事前の考察に縛られすぎず、その場に合った臨機応変の判断と行動が大切。

作成：「防災塾・だるま」会員
片山 晋 TEL045-772-1286